

友野
とものかずこ
和子



清瀬 元気ができるまちづくり

人生100年時代。元気に暮らせる地域共生社会にむけて、清瀬の仕組みづくりを目指します



1. 学校と地域のコミュニティーをデジタルで連携し、新たなステージに導く

- ①SDGsにおける「食育推進計画」を、学校の給食という場であらたに展開する
- ②自然・環境・農体験・農・商工と市民を繋げる清瀬の「みどりの食料システム戦略」づくり
- ③地域のコミュニティーを生かした、「いじめ」「不登校対策」等に取り組み、子どもたちの居場所をつくる

2. 社会保障制度を持続可能にするための高齢化社会の対応

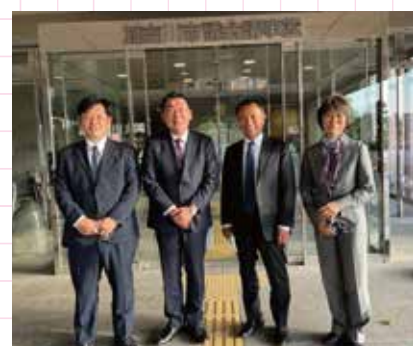
- ①コロナ禍で進んだデジタル技術を活用し「医療」と「介護・障害施設」の連携を深める
- ②健康・生きがい・地域の経済活性化に繋がる「元気ポイント事業」を始める
- ③生活(医療・買い物・駅)と行政(施設)を結ぶ市内循環型のきよバス運行の実現する

3. 災害に強く、手をつなぐ福祉があるまちづくり

- ①防災・防犯と福祉をつなぐコミュニティーづくりを促進する
- ②備蓄を通じた市内の食の循環システムを構築する
- ③大江戸線の誘致や公団の空き家の再活用等、市を超えた国や県との繋がりの中で、北部地域の発展の在り方を考える

4. 地域の魅力を強化・発信

- ①スポーツ・文化・芸術など、清瀬のコミュニティーの魅力を強化・発信し、地域で回す経済の仕組みの在り方を模索・再創生する
- ②デジタル活用のリスクリングを通し市民の交流を広げて、再チャレンジできる市を目指し、市民の自主的で健全な活動を支える



地方自治は民主主義の学校といわれています。市民と共に考えます。